

---

---

# 淀川水系淀川左岸ブロック 河川整備計画(変更原案)について(概要)

---

---

# 淀川左岸ブロック河川整備計画(変更原案)についての説明概要

## ■ 淀川左岸ブロックの主な特徴

### (治水面)

○平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、ブロック内の各河川について治水目標及び治水手法に基づき、審議を行った結果、穂谷川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に河道改修による整備を設定した。

○同様に、前川は、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に河道改修による整備を設定した。

### (環境面)

○ブロックの自然環境は、市街地内の貴重な水辺空間として利用されている。

○ブロックの各河川ともに、取水堰や床止め等の河川横断構造物が数多く存在し、水生生物の行動範囲が限定され易い状況にあり、縦断的な連続性を改善する必要がある。

○河川空間利用については、市民と連携した施設利用の他、地域の市民団体による水生生物観察会、清掃活動が行われている。



これまでの治水面の審議及び前回審議会の環境面の審議結果により、淀川左岸ブロックに特化した項目について説明。

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

## ■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

### 1. 淀川本川合流点の落差について

指摘事項	対応	本文の記載内容（P20）
縦断的な連続性について、淀川本川との合流点の落差はどうするのか。	淀川本川との合流点付近の落差については、改善の必要性や実現性等について国と協議を行う。	農業用の取水堰や床止め工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない取水堰の撤去や床止め工の改善と合わせて、魚道の設置等により上下流の連続性の確保に努めます。 また、整備にあたっては、水生生物の繁殖・生息・生育状況の調査を実施します。整備や補修を実施する際には、自然環境や景観に配慮し、適切な対策を行います。



天野川 淀川合流点



穂谷川 淀川合流点



船橋川 淀川合流点

# 前回審議会での委員指摘事項と対応方針

## ■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

### 2. 維持管理について

指摘事項	対応	本文の記載内容(P21)
計画的な維持管理とはどのようなものか。	維持管理の優先順位付けを行い、危険度の高い箇所から計画的に順次補修を行うものである。	<p>堤防及び護岸等の河川管理施設の機能や河川の流下能力を確保するため、施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握に努め、人命を守ることを最優先に、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し優先順位を定めて、危険度の高い箇所から計画的に補修を行います。また、地域住民にも身近な河川管理施設の状況を伝えるため、それらの点検結果を公表します。</p> <p>土砂の堆積、植生の繁茂に対しては、堆積・繁茂状況を定期的に調査し阻害率の高い区間を把握することと併せ、地先の危険度などを考慮して計画的に土砂掘削等の対策を行います。</p> <p>さらに、維持管理の基本となる河道特性や河川管理施設の情報を整理・蓄積し、河川カルテを作成するとともに維持管理計画を策定して、計画的かつ効率的な維持管理を行います。</p> <p>なお、河床低下による災害が懸念される箇所が見つかった際には、流域及び河道特性を踏まえ、河床低下対策を進めます。</p>





# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

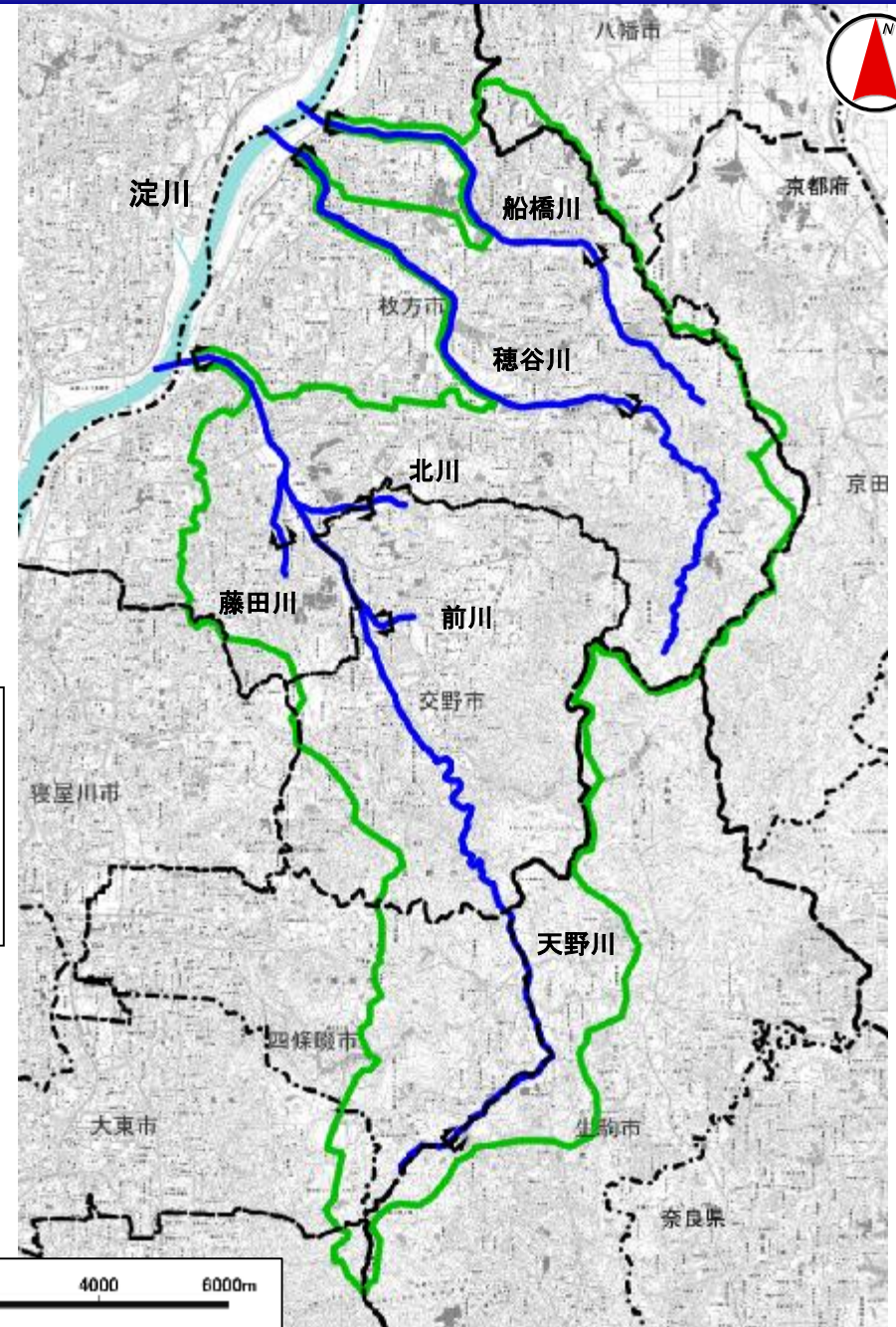
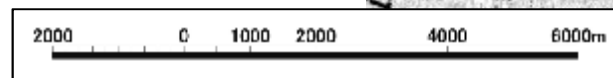
## 1. 流域の概要(P1)

淀川水系淀川左岸ブロックは、生駒山系にその源を発し、淀川左岸に注ぎ込む天野川、穂谷川、船橋川の3つの一級河川の流域から構成されます。流域は枚方市、交野市、四條畷市、大東市、東大阪市、奈良県生駒市、京都府八幡市、京田辺市の8市にまたがり、その大部分は京阪奈丘陵と呼ばれる丘陵地帯と生駒山地からなり、かつては流域全体に棚田や溜池、湿地も多く分布していました。

昭和40年頃からの高度経済成長を契機に、大阪府と京都府を結ぶ主要な交通が集中している下流部から宅地開発などによる急激な都市化が進み、現在では上流の山地付近まで都市化が進んでいます。

水系名	流域面積 (km <sup>2</sup> )	指定区間延長 (km)
天野川	51.3	14.9
・前川	4.5	0.7
・北川	7.4	1.3
・藤田川	2.7	1.0
穂谷川	14.4	7.8
船橋川	8.7	5.2

凡 例	
	河川
	流域界
	行政界
	河川区域



# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 2. 流域の特性(P2)

### (1) 自然環境特性(P2・P3)

天野川下流部は、河道内に洲が形成されており、瀬や淵がわずかに見られ、淵にはコイやギンブナ等が多く見られます。中流部は、豊かな自然環境が残され、淵や岩の周辺にはカワヨシノボリ等が見られます。上流部は河道内にはヨシなどによる植物帯が形成され、トウヨシノボリやカワヨシノボリが確認されています。

穂谷川下流部は、ヨシ等が繁茂し、洲や淵が連続し、オイカワ、タモロコ等が見られます。中流部は落差工下流側の深掘れした箇所や淵等にタモロコ、ギンブナ等が確認されています。上流部は田園風景の中を流下し、河道内に形成された淵や深掘れした箇所でコイ、ギンブナ等が確認されています。

船橋川は取水堰・落差工下流部の深掘れした箇所や淵などにコイ、ギンブナ等が見られます。

魚類の生息状況表(平成24年調査結果)

	天野川			穂谷川			船橋川
	下流	中流	上流	下流	中流	上流	
種数	14 (9)※	5 (12)※	8 (7)※	7 (8)※	3 (4)※	2 (4)※	8 (9)※
大阪府 RDB記載種	ドンコ		タモロコ ・ カマツカ	ドンコ		タモロコ・メダカ	
	タモロコ・カマツカ ・ ドジョウ・メダカ	カワムツ	ドジョウ ・ メダカ	タモロコ・ドジョウ		メダカ	ドジョウ・ ドンコ
その他 主な種	オイカワ・モツゴ・ヌマムツ			オイカワ・モツゴ ・ コイ・ギンブナ	-	-	モツゴ・ギンブナ タイリクバラタナゴ・ タウナギ
	コイ		-				
	ニゴイ・コウライニゴイ ・ ギンブナ・アユ ・ ナマズ・ブルーギル	-					

※( )の数値は2006年(H18)の結果  
(調査方法が異なる)

# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特長(P6)

### (1) 天野川(P6)

天野川下流部は、複断面形状の築堤区間となっており、川幅は約50m、河床勾配は1/620~1/820程度でコンクリートブロック積護岸が整備されていますが、淀川河川敷と連続した空間的な広さが人工的なイメージを緩和しています。周辺に京阪枚方市駅、枚方市役所、税務署、郵便局、警察、保健所、府民センター等が集中する官公庁街があり、枚方市の中心市街地を流れています。

天野川中流部は、山付区間が多く、川幅は約20m、河床勾配は1/55~1/150となっており、山間部を蛇行しながら流下し、岩の露出した溪流景観を呈しています。また、この区間は大阪府教育委員会に指定された「名勝磐船峡」や「府民の森ほしだ園地」「交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター」など、休日には利用者でにぎわうレクリエーション施設が点在しています。

天野川上流区間は、川幅約7m、河床勾配は1/130程度となっており、生駒山地を遠景とした田園風景の中を緩やかに蛇行しながら流下しています。上流端周辺では関西文化学術研究都市田原地区の開発が進んでいます。

藤田川、北川、前川はともに、市街化した平野部を流下し、天野川下流部に合流しています。藤田川は、河幅約10m、河床勾配は1/240程度、北川は河幅約15m、河床勾配は1/400~1/470程度、前川は河幅5~12m、河床勾配は1/300~1/350程度で、コンクリートブロック積護岸で整備されています。



天野川下流部



天野川中流部



天野川上流部



藤田川



北川



前川

# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特徴(P6)

### (2) 穂谷川(P7)

穂谷川下流部では、川幅は約30m、河床勾配は1/250～1/740程度となっており、大部分が市街化した平野部を流下しています。

穂谷川中流部では、川幅は約25m、河床勾配は1/220程度となっており、山田池公園周辺では、公園管理者や枚方市と協力しながら、下流部から続く堤防沿いの河畔林を利用した自然巡回路を整備しています。また、緩傾斜の護岸に在来種での緑の復元を行い、河川周辺の自然環境や田園風景にとけ込んだ空間となっています。

穂谷川の上流部では、川幅は約15m、河床勾配は1/200程度となっており、河畔林を伴う堤防を利用した自然巡回路が整備され、周辺の田園風景等の自然にとけ込んだ連続性のある水辺空間となっています。



下流部



中流部



上流部



# 第1章 第1節 流域及び河川の概要

## 3. 河川の特徴(P6)

### (3) 船橋川(P7)

船橋川の川幅は20m～50m、河床勾配は1/350～1/180程度となっており、コンクリートブロック積護岸で整備されています。田畑、集合住宅が連なる平野部を流下し、発達した洲や高水敷には草本類を主とした植物が繁茂しており、人工的な景観を和らげています。



下流部



上流部

# 第1章 第4節 河川整備計画の目標

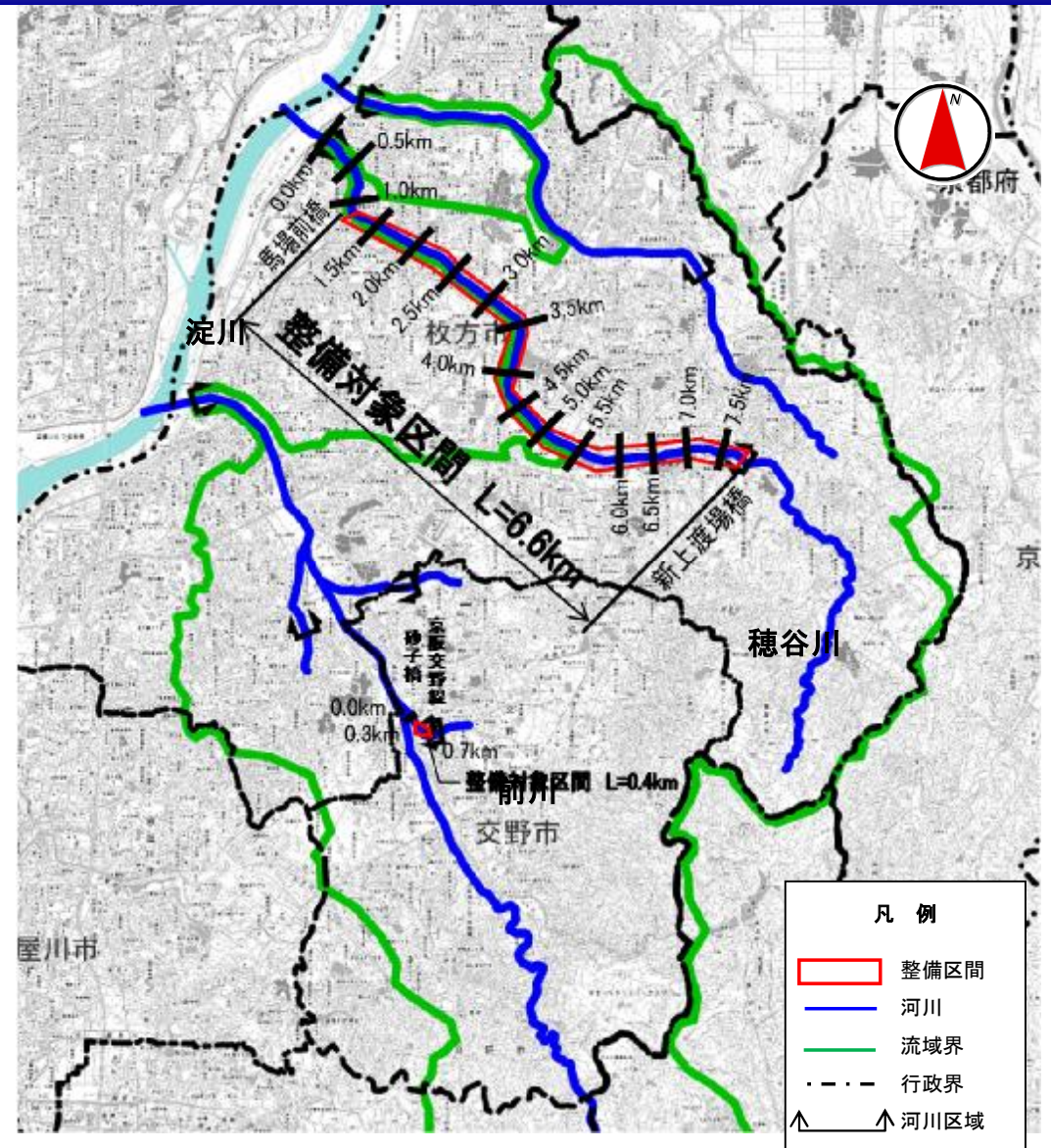
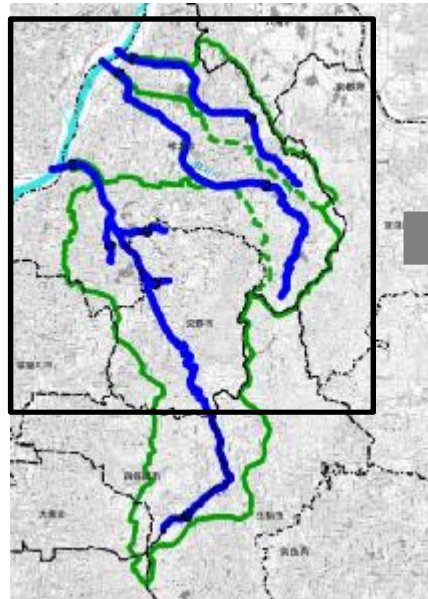
河川名	現状(P8)	課題(P8)	目標(P12)
天野川	天野川は、昭和44年に全体計画を策定し、改修を進め、淀川合流点から八幡橋までは、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備、八幡橋より上流は時間雨量65ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
藤田川	昭和30年代前半に、枚方市香里ヶ丘地区の大規模団地造成に伴い、改修が行われ、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
北川	昭和44年に全体計画を策定し、改修を進め、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
前川	前川は、天野川合流点から砂子橋までは、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成し、砂子橋上流において、時間雨量50ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備を実施しています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度とする。
穂谷川	昭和55年に全体計画を策定し、改修が進められています。淀川合流点から馬場前橋までは、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備、馬場前橋から国道1号までは時間雨量50ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。また、大阪府営山田池公園周辺および第二京阪道路から新上渡場橋区間は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を安全に流下させることができる河川整備が実施されています。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度とする。
船橋川	昭和30年代中頃に全体計画が策定され、工業団地等の開発計画対象事業として、改修が行われ、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 1. 洪水対策(P15)

整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
前川	砂子橋下流～京阪交野線下流 (0.3km～0.7km)	約 0.4km
穂谷川	馬場前橋上流～国道1号 (1.1km～3.4km)	約 2.3km
	国道1号～山田池橋 (3.4km～4.4km)	約 1.0km
	山田池橋～新上渡場橋下流 (4.4km～7.7km)	約 3.3km



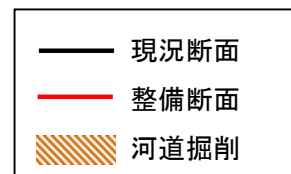
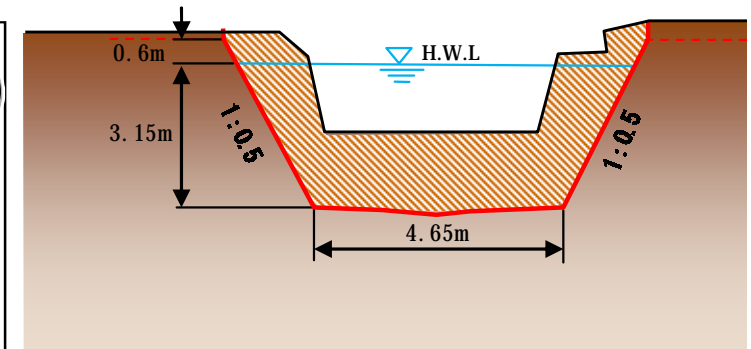
整備対象区間平面図

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (1) 前川の洪水対策(P17)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
前川	砂子橋上流～京阪交野線下流 0.3km～0.7Km	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の生物移動の連続性の確保に努めます。



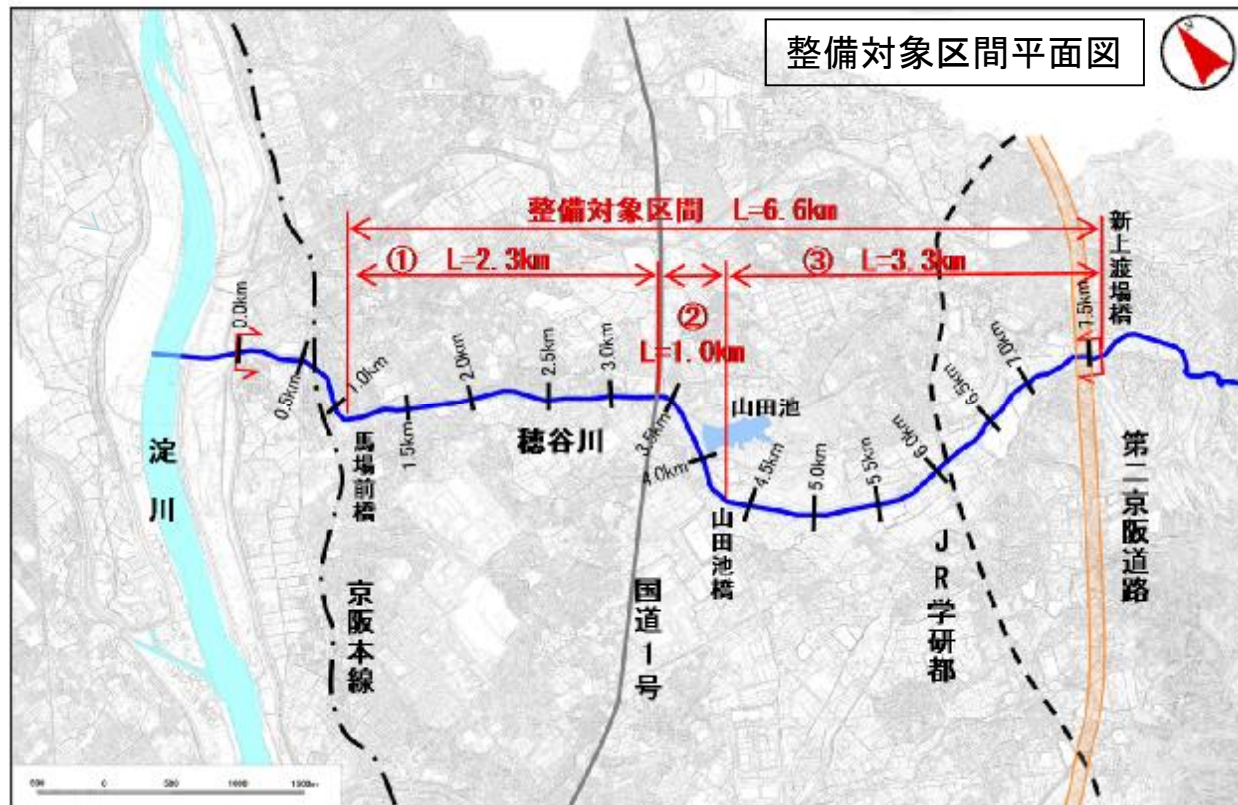
整備計画断面例(0.5km付近 砂子橋上流地点)

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## (2) 穂谷川の洪水対策(P18・P19)

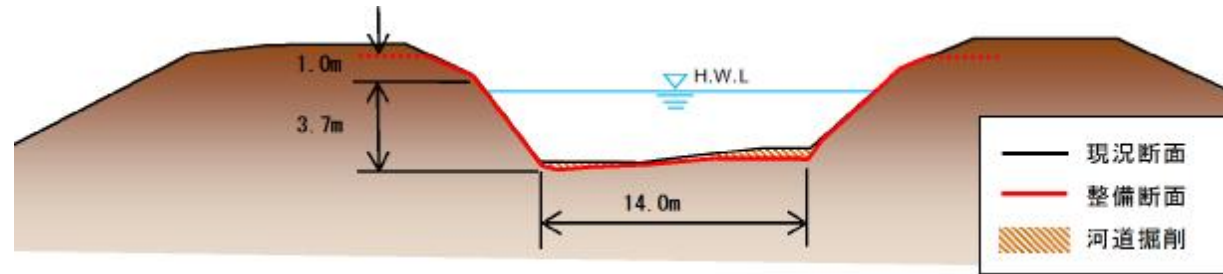
### 整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
穂谷川	①馬場前橋上流 ～国道1号上流 (1.1km付近～3.4km)	河床掘削及び既設護岸の根継ぎにより流下能力を確保するとともに、老朽化護岸対策として既設護岸の積み替えを行います。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の生物移動の連続性の確保に努めます。
	②国道1号上流 ～山田池橋の未改修部分 (3.4km付近～4.4km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力の確保を行うとともに、堤防の補強を行います。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の生物移動の連続性の確保に努めます。なお、大阪府営山田池公園付近は、公園計画と一体となった河川整備を行います。
	③山田池橋～新上渡場橋下流 (4.4km付近～7.7km)	河床掘削により流下能力を確保します。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の生物移動の連続性の確保に努めます。

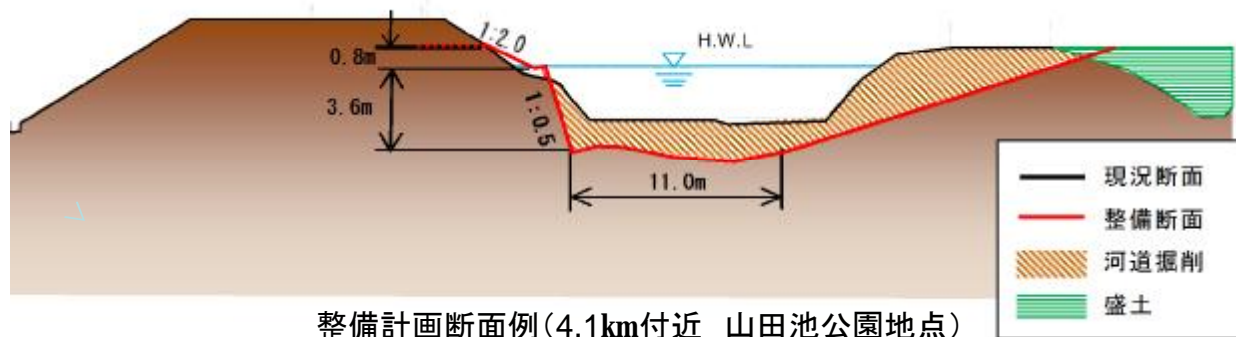


# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

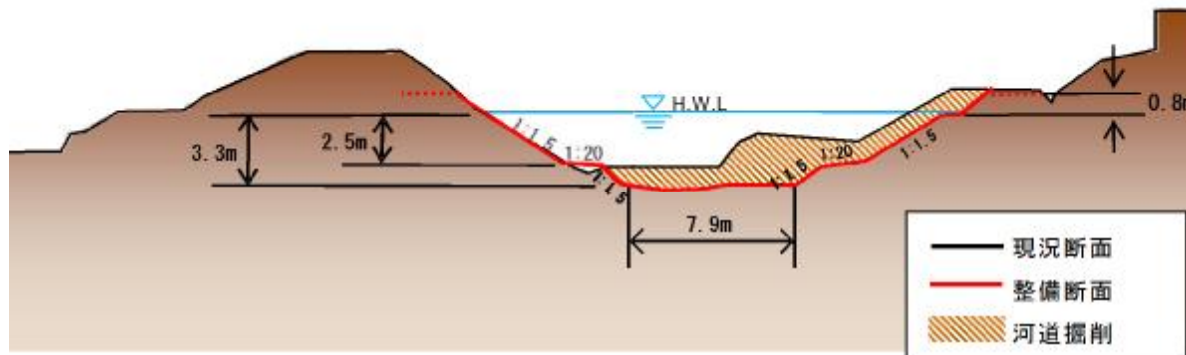
## (2) 穂谷川の洪水対策(P18・P19)



整備計画断面例(1.4km付近 国道1号下流地点)



整備計画断面例(4.1km付近 山田池公園地点)



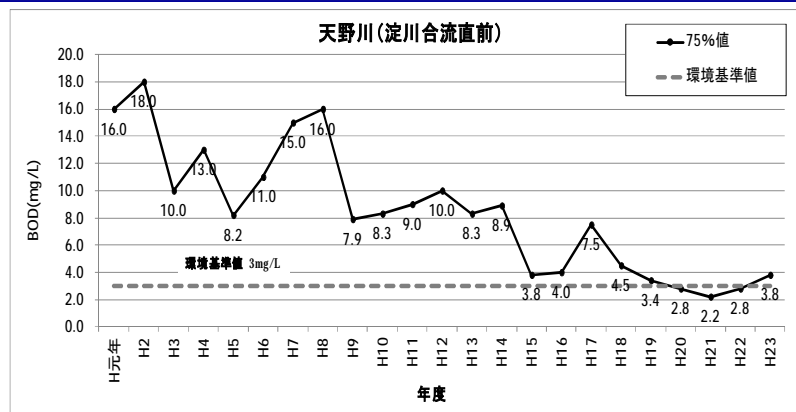
整備計画断面例(4.4km付近 山田池橋上流地点)

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

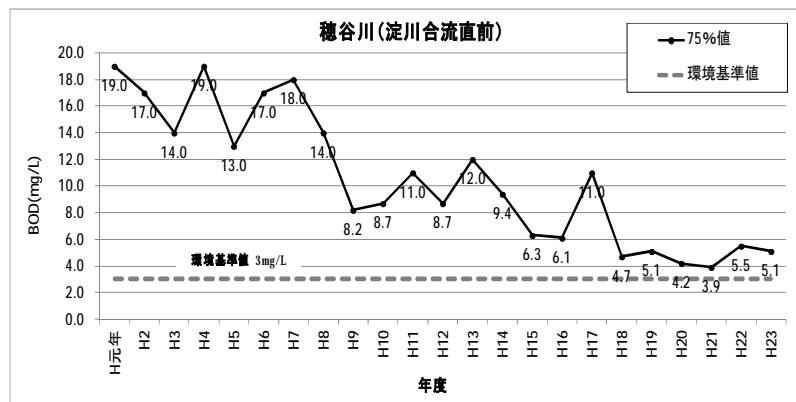
## 3. 河川環境の整備と保全 (P20)

### (1) 水質

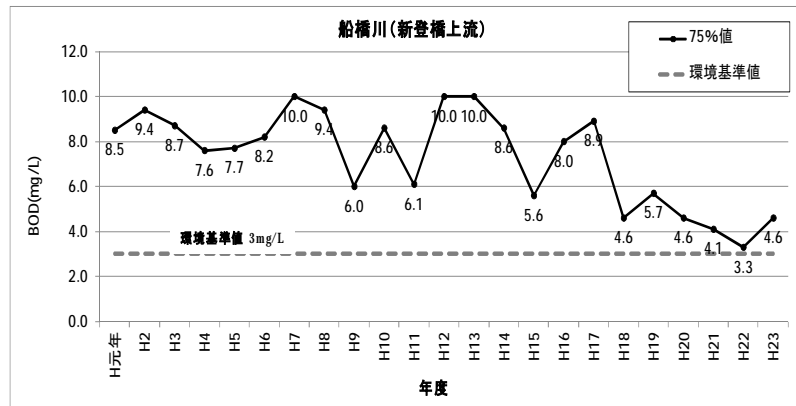
現状 (P9)	天野川、穂谷川、船橋川における水質汚濁の環境基準は、3河川ともB類型に指定されています。平成7年頃より、下水道普及率の上昇に伴い、水質は改善傾向にあります。しかし、依然として環境基準を達成していないことから、今後も関係機関や住民と連携して水質改善に努めていく必要があります。
目標 (P13)	下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善を目指します。また河川で活動している地域住民やNPO等と連携し、河川美化、環境教育などにより水質の改善を目指します。
実施 (P20)	環境基準を満足することはもとより、多様な生物の生息・生育環境を保全するため、流域市の環境部局による行政指導や下水道整備・接続の促進による水質改善とともに、関係機関や地域住民、学校、NPO等と連携し、生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境学習、啓発活動を進めることにより、水質改善に努めます。



河川水質 (天野川)



河川水質 (穂谷川)



河川水質 (船橋川)

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P20)

### (2) 自然環境

現状・課題(P10)	目標(P13)	実施(P20)
<p>天野川、穂谷川、船橋川は、市街地内の貴重な水辺空間としての利用が行われているとともに、魚類や水生生物、水辺の植物等が生息し、貴重種も確認されています。現存する良好な自然環境については今後も保全する必要があります。</p> <p>天野川下流部ではアユも確認されていますが、各河川ともに取水堰や床止めなどの河川横断構造物が数多く存在します。しかし、魚道が設置されている河川横断構造物は限られ、生物の移動に影響を与えています。生物の多様性を確保するためには、縦断的な連続性を確保する必要があります。</p>	<p>河川工事実施に際しては、河川全体の自然の営みを視野に入れたうえで、「河岸やみお筋の保全」、「上下流の生物移動の連続性確保」、「周囲の景観との調和」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全・再生を目指します。</p> <p>河川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、関係機関や地域住民と連携し、散策路や川に近づくための階段等の整備を図るなど、川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成を目指します。</p>	<p>穂谷川は、瀬や淵、河道内の植生など良好な自然環境が見られる箇所もあり、河川整備にあたっては河床掘削の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、可能な限り自然環境の保全を図り、動植物の繁殖・生息・生育環境の保全・再生に努めます。</p>





# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

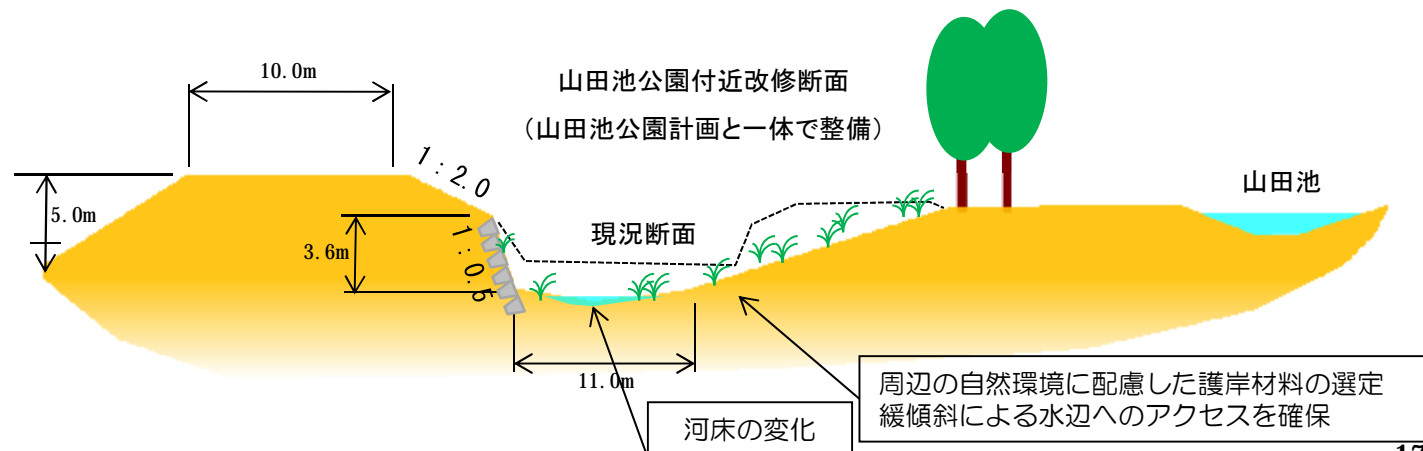
## 3. 河川環境の整備と保全 (P20)

### (3) 景観・親水性

現状・課題 (P10)	目標 (P13)	実施 (P20)
<p>天野川、穂谷川、船橋川の現況河床は全体的に平坦な区間が多く、多様性に乏しい環境となっていますが、現状で瀬と淵が分布している箇所や、砂州上に植生が繁茂している箇所も見られます。</p> <p>河床や水際、堤防上の植生は、人工的な景観を和らげるものであり、現状の保全に配慮しつつ、河川整備や維持管理を行う必要があります。</p>	<p>豊かな河川環境は重要な地域資源であり、良好な景観を維持・形成するため、景観に配慮した材料を採用するなど、周辺環境との調和を目指します。</p> <p>また、関係機関や地域住民と連携し、地域住民が愛着を持てる空間づくりを目指します。特に、都心部においては、民間企業等の連携により、都市のシンボルとしての質の高い利用の促進を目指します。</p>	<p>河川整備の際には、河川周辺の土地利用などと調和した河川景観の形成に努めます。</p> <p>前川、穂谷川では、周囲の景観に配慮した護岸材料の選定などの工夫を行うとともに整備区間の現地状況及び多自然川づくりの必要性を検討の上、瀬と淵、水際植生の保全・再生を行います。</p> <p>穂谷川では、隣接する山田池公園から穂谷川へのアクセスが確保できるよう公園計画と一体となった河川整備を行い、安全対策と利用ルールを策定の上、水辺に触れ合えるような親水空間を創出します。</p> <p>アドプト・リバー・プログラムや河川環境学習等により、河川が住民の活動の場として活用されるよう、河道内へのアクセスの乏しい河川では、安全対策と利用ルールを策定し、親水階段の設置等、アクセスの改善を図ります。</p>



天野川水辺ブラザ



# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P20)

### (4) 水量

現状・課題(P9)	目標(P12)	実施(P20)
<p>天野川、穂谷川、船橋川の流況は、全体的に水量は少なく、灌漑期において、穂谷川と船橋川で瀬切れ現象)が発生し、魚類や水生生物の繁殖、生息、生育状況に影響を与えています。</p>	<p>河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指します。</p>	<p>流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行います。</p>



穂谷川



船橋川

# 第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

## 3. 河川環境の整備と保全 (P20)

### (5) 水利用

現状・課題(P9)	目標(P12)	実施(P20)
<p>天野川、穂谷川、船橋川の水利用は、主に中、上流部で農業用水として取水され利用されています。近年、濁水被害は報告されていませんが、現状の利用実態状況を把握する等、適正かつ効率的な水利用に努める必要があります。</p>	<p>河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指します。</p>	<p>農業用の取水堰や床止め工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない取水堰の撤去や床止め工の改善と合わせて、魚道の設置等により上下流の連続性の確保に努めます。</p>



天野川(魚道有り)



穂谷川(魚道無し)



船橋川(魚道無し)